

科目名 (科目番号)	輸血・移植検査学実習 (102173)	教員名	藤田 和子 他	学科等	臨床検査	必修	履修年次	3
				曜日・時限等	時間割表参照	単位数	1	
				オフィスアワー		各担当教員シラバス参照		
授業概要	輸血検査は交差適合試験と不規則抗体スクリーニングが基本となるが、医療現場での安全な輸血には血液型検査は重要であり、ABO亜型検査を含めた実習を行う。また、母児間血液型不適合の際の検査法についても習得する。							
準備学習	毎回の授業の到達目標と学習内容を十分に理解しておくこと							
授業計画	回	授業項目	到達目標・学習内容					
	1	イントロダクション(検体の取り扱いを含む)	到達目標:凝集反応の判定技術を習得する。 学習内容:輸血検査の書類・検体の取扱い方、凝集反応の凝集の強さ判定を学ぶ。					
	2	ABO・Rh(D)血液型検査	到達目標:原理を理解し、実際に血液型の判定を行浮ことが出来る。 学習内容:ABO血液型、Rh(D)血液型検査と、D陰性確認試験を行う。					
	3	亜型検査(唾液検査を含む)	到達目標:亜型を誤りなく判定できる。 学習内容:ABO血液型の亜型検索のため、解離試験、唾液検査を行い、細胞表面の型物質の検出・分泌型検査を理解する。					
	4	不規則抗体スクリーニング検査	到達目標:患者血清中の抗体検出ができ、抗グロブリン法の原理を説明できる。 学習内容:不規則抗体のスクリーニング検査法、食塩水法、酵素法、LISS-IAT法、PEG-IAT法を行い、その違いを学ぶ。					
	5	不規則抗体同定検査	到達目標:不規則抗体の性質、検査の意味を理解し、抗体同定ができる。また抗体検出方法の選択ができる。 学習内容:不規則抗体の同定法を学ぶ。					
	6	自己抗体・母児不適合の検査	到達目標:自己免疫性溶血性貧血、新生児溶血性疾患の機序を、説明できる。 学習内容:直接抗グロブリン抗体試験陽性となる場合の検査方法を学び、実施する					
	7	交差適合試験	到達目標:交差適合試験を行うことができ、交差試験の意味を説明できる。 学習内容:各種の方法で交差適合試験を行って、患者に適合する血液を供給する方法を学ぶ。					
	8	輸血用血液の選択の検査	到達目標:適合血選択の検査を理解し、不適合となった場合の対処法を説明できる。 学習内容:適合血供給のため、ABO、Rh血液型検査、不規則抗体検査を行って適当な血液製剤を選択し、交差適合試験を行う。					
成績評価の方法・基準	レポート(20%)、実技試験と筆記試験(合わせて80%)によって総合評価する。							
教科書	輸血・移植検査技術教本			社団法人日本臨床検査技師会		丸善出版		
参考図書	最新臨床検査学講座 免疫検査学			窪田哲朗、藤田清貴、 細井英司、梶原道子 編		医歯薬出版社		
教員からのメッセージ	輸血検査は人命に関わる大切な検査です。しっかり勉強して、自信を持って検査結果を出せるようになりましょう。レポートはコメントを付して返却します。							